



号外 2007.11.10

INDEX

独立行政法人のムダ遣いを質す  
 国家公務員より高い給与水準  
 一連の混乱について  
 ~ 松本大輔広島県連代表談話



発行元  
 民主党プレス民主編集部  
 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1  
 電話03-3595-9988 (代表)

連絡先  
 民主党広島県第2区総支部  
 〒733-0022 広島県広島市西区天満町17-10-102  
 電話082-532-7032

# 独立行政法人のムダ遣いを質す

文科省所管の 科学技術振興機構 不透明な随意契約等を指摘



民主党・無所属クラブ 松本大輔



質疑に立つ松本大輔衆院議員①と答弁する渡海文部科学大臣②

松本大輔衆院議員 = 比例中国 = は10月24日、税金・公金が元となっている運営費交付金が年間1千億円以上も支出されている独立行政法人、科学技術振興機構(以下、JST)について衆院文部科学委員会で質問した。松本氏は、755億円にも及ぶ累積損失解消のメドが全くたっていない上、天下り先財団法人やファミリー企業等との随意契約が大半を占めている点などを指摘、納税者の納得は到底得られないとして、今すぐ事業廃止等の抜本的見直しに踏み込むよう政府に求めた。(2面に関連記事)

JSTの文献情報提供事業は昭和32年開始以来、50年間にわたって本業で赤字を続け、累積損失が755億円にものぼっている上、その解消には全くメドがたっていない。松本氏はまずこの点について触れ、「貴重な税金のムダ遣いは1円たりとも認められない。JSTのような先に漫然と公金投入を続けていいのか」と質した。

さらに松本氏は、JSTの平成17年度支出総件数4941件のうち随意契約4708件と、極めて随意契約が多く、しかも契約先は文科省やJSTからの天下り財団法人やファミリー企業等に対するものであることや、行革の名の下に平成19年度から一般競争入札が導入されたものの、落札率99.98%、入札に参加したのは天下り先財団法人1社のみという事例があることなどを明らかにし、「文科省からJSTに行った運営費交付金が、随意契約の形で文科省OBの天下り先の『渡り』に必要な報酬や退職金に化けたという、とんでもない話だ。今すぐ事業廃止等の抜本的見直しに踏み込むべきではないか」と見解を求めたが、渡海紀三朗文部科学相は、「よく見直した上で検討していきたい」と述べるにとどまった。

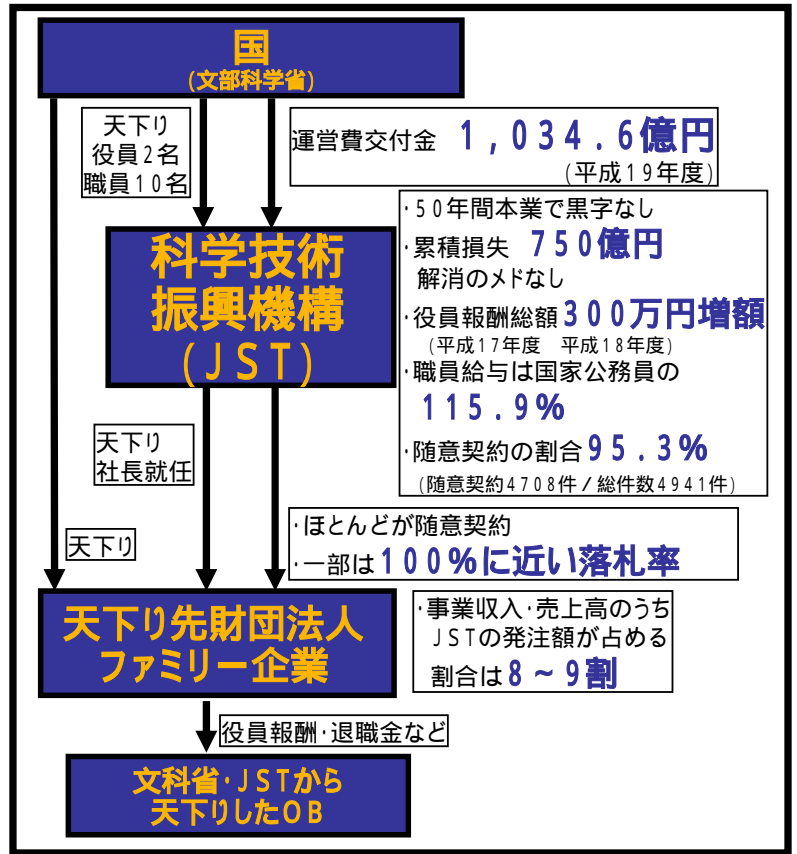
科学技術  
振興機構

# 国家公務員より高い給与水準

松本大輔衆院議員は、JSTの役員報酬総額が平成17年度9418万円から平成18年度9719万円と3百万円も増えていることや、職員の給与も国家公務員の115%と高い水準にあることも指摘した。

松本氏は、「JSTに対しては予算の9割を国から手当てされているにもかかわらず、職員の給与が国家公務員より高い水準にあるのなら、外注して独立行政法人にやらせる意味はない。まさに天下り先の確保だけが目的化してしまっている。民間の平均給与は9年連続減少中、1世帯当たりの平均所得が過去17年で最低となる中で、定率減税が全廃、年金保険料も今年引き上げられた。政府のムダ遣いについての視線はとりわけ厳しくなっている。納税者の納得の得られる使い方をすべきだ」と述べた。(1面に関連記事)

## 科学技術振興機構の税金ムダ遣いの構図



## 一連の混乱について ~ 松本大輔 広島県連代表談話

大変な混乱を招き、ご期待を裏切ってしまったことに関し、心からお詫びを申し上げます。

大連立は、選挙によって政権を選択するという国民の権利を奪い、否定するものであり、参院選で示された民意をふまえれば拒否するのは当然です。

与党とは違うもう一つの魅力的な選択肢を示し、国会の場で、国民に開かれた政策論争を展開しながら、あくまでも選挙を戦って勝つことで、その政策を実現していく。この方針は微動だにしません。

国会に求められているのは、なんといっても行政に対する監視、チェック機能です。議会の多数派が内閣、つまり行政を司る議院内閣制においては、とりわけ野党第一党にその役割が期待されています。

消えた年金、薬害肝炎、イラク戦争への給油転用疑惑、航海日誌破棄と給油量隠蔽問題、障害者自立支援法見直し等、今国会も課題が山積しています。

野党が機能不全に陥り、国会のチェック機能が麻痺することは、こういった課題についての国民の声が政治に届かなくなることを意味します。

だからこそ、野党第一党の政治空白は決して許されるものではありません。

ご心配をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げますとともに、一刻も早く体勢を立て直し、失った信頼の回復と国民の生活が第一の政治の実現のため全力を傾けてまいりますことを皆様にお誓い申し上げます。